

## 放射線検査を受ける患者さんへ(患者用)

和泉市立総合医療センター 中央放射線科

病院を受診したときに、けがや病気で放射線検査が必要な場合があります。

医師は X線を使用した放射線検査によって放射線被ばくによる不利益があるものの、早く病気を見つけて症状を改善するための処置を行うことができます(図1)。

この放射線被ばくは検査の種類や内容により異なりますが、人体に及ぼす影響の程度は小さいものです<sup>1)</sup>(図2)。

より安全な検査にするために、法律によりCT検査・血管造影検査・核医学検査の3つが管理される対象となりました。特に、小児は、年齢によって放射線の感受性が高くなることから、より厳密な被ばく線量の管理が求められています<sup>2)</sup>。

そのため、年齢と体型に応じた線量の最適化を行い、放射線の影響が小さくなるように努めています。



図1 診断の利益>被ばくの不利

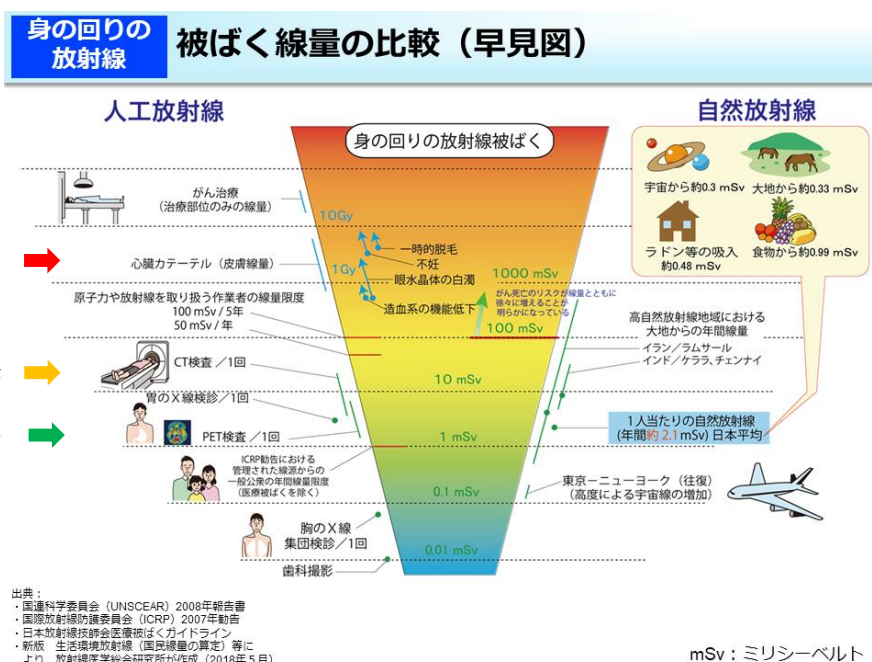


図2 身の回りの放射線被ばく線量の比較<sup>1)</sup>

我々が暮らしている日本でも、一人当たり年間約2.1mSvの自然放射線があります。診断で使用している検査では、自然放射線よりも大きい被ばく線量ですが、過去のデータより人体への影響は小さいと考えられています。

1)環境省ホームページ：[環境省\\_被ばく線量の比較 \(早見図\) \(env.go.jp\)](http://env.go.jp)

2)小児CTガイドライン-被ばく低減のために-平成17年2月21日。

[公益社団法人日本医学放射線学会 | 小児CTガイドライン-被ばく低減のために- \(2005年2月21日\) \(radiology.jp\)](http://radiology.jp)